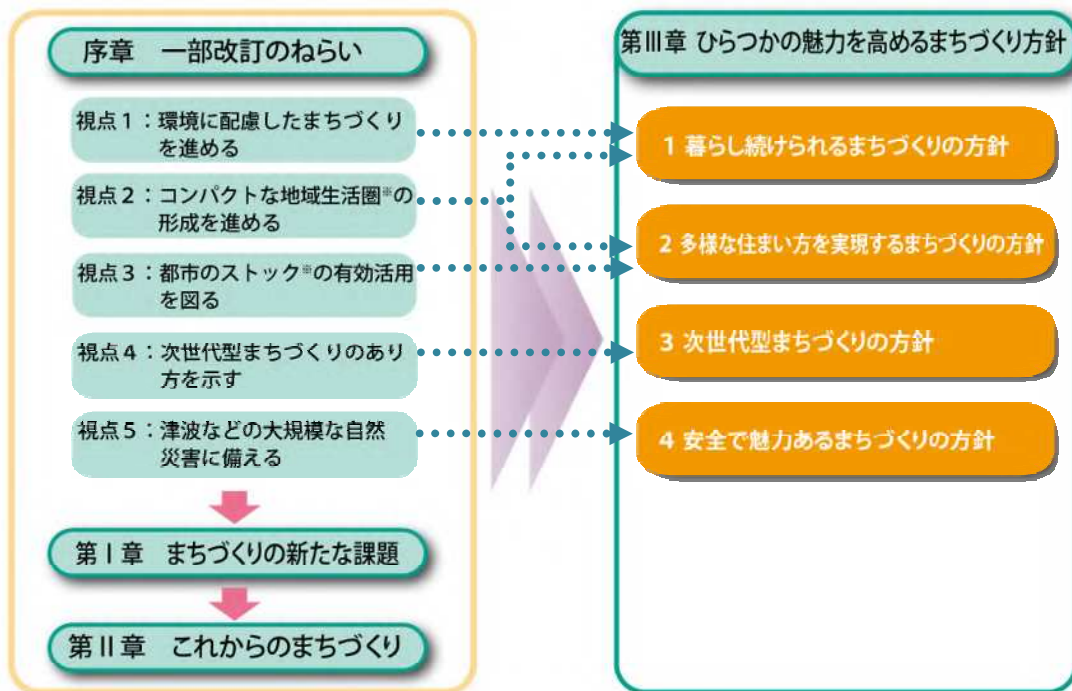


## 第Ⅲ章 ひらつかの魅力を高めるまちづくり方針

●本章では、第Ⅱ章のこれからのまちづくりを実践していくための取組みの方針を示します。

●まちづくりの進捗を踏まえた方針の更新や新たな課題に対応するために必要な分野横断的な取組みに基づきまちづくりを進めます。

第Ⅲ章構成図



各方針の取組み

(1) 方針追加のねらい	方針追加の目的を示します。
(2) 課題	方針ごとの新たな課題を示します。
(3) 基本的な考え方	取組みの基本的な考え方として示します。
(4) 方針	方針ごとの考え方と目標年次までの実現を目指す【取組項目】を示します。

(4) 方針の取組項目に、取組主体とその考え方を示します。

**主導** 市が主導して検討、実施する取組項目

**支援** 地域等の主体的な検討、実施を支援する取組項目

**協働** 市民、事業者、行政などの多様な主体の協働や連携により検討、実施する取組項目

## Ⅲ. 1 暮らし続けられるまちづくりの方針

### (1) 方針追加のねらい

・本市の基本構造である「2核1地域<sup>\*</sup>」と既存の地域生活圏<sup>\*</sup>をいかしたコンパクトシティ・プラス・ネットワーク<sup>\*</sup>の形成により、都市の活力を未来へ持続するために、立地適正化<sup>\*</sup>や低炭素まちづくり<sup>\*</sup>などの新たなまちづくりの手法の活用も視野に入れ、道路網や公共交通ネットワークと連携した計画的な都市機能の誘導や環境負荷の少ないまちづくりに関する方針を追加します。

### (2) 課題

#### ●コンパクトな地域生活圏の形成に関する課題

・今後予想される市街地の人口密度の低下に対して、地域生活圏の拠点等への計画的な機能誘導により生活サービスを維持し、環境負荷の少ないコンパクトな地域生活圏の形成を進めていくことが必要です。また、公共施設についても、維持管理や更新のコストによる財政的負担の増加が予想されることから最適化が必要です。

#### ●骨格的な公共交通軸の維持・強化に関する課題

・暮らし続けられる地域生活圏を維持していくため、幹線バスなど骨格的な公共交通軸の維持・強化を図るとともに、生活圏<sup>\*</sup>ごとの実情に応じた地域公共交通<sup>\*</sup>の導入や歩行者・自転車ネットワークの強化により、生活に必要な諸機能が立地する拠点への移動手段を確保していくことが必要です。

・公共交通軸を維持・強化していくにあたり、公共交通の利用促進策の具体化が必要です。

・地域ごとの生活を支える都市機能が立地する拠点の形成とそれらの拠点間や中心市街地への公共交通によるアクセスを確保するネットワークを実現するため、土地利用、道路と交通、住まい、産業、うるおいあるまちづくりなどを包括的にとらえ、効果的に取組んでいくために必要な方針です。

#### ●持続可能で活力あるまちづくりの課題

・持続可能で活力あるまちを実現するために、産業を支える基盤として、北の核<sup>\*</sup>など産業集積地への道路網の強化も必要です。

・ひらつかの顔となるエリアでは、交流人口の増加や企業誘致を推進していくために、まちの顔にふさわしい魅力の向上が必要です。

#### ●環境負荷の少ないまちづくりに関する課題

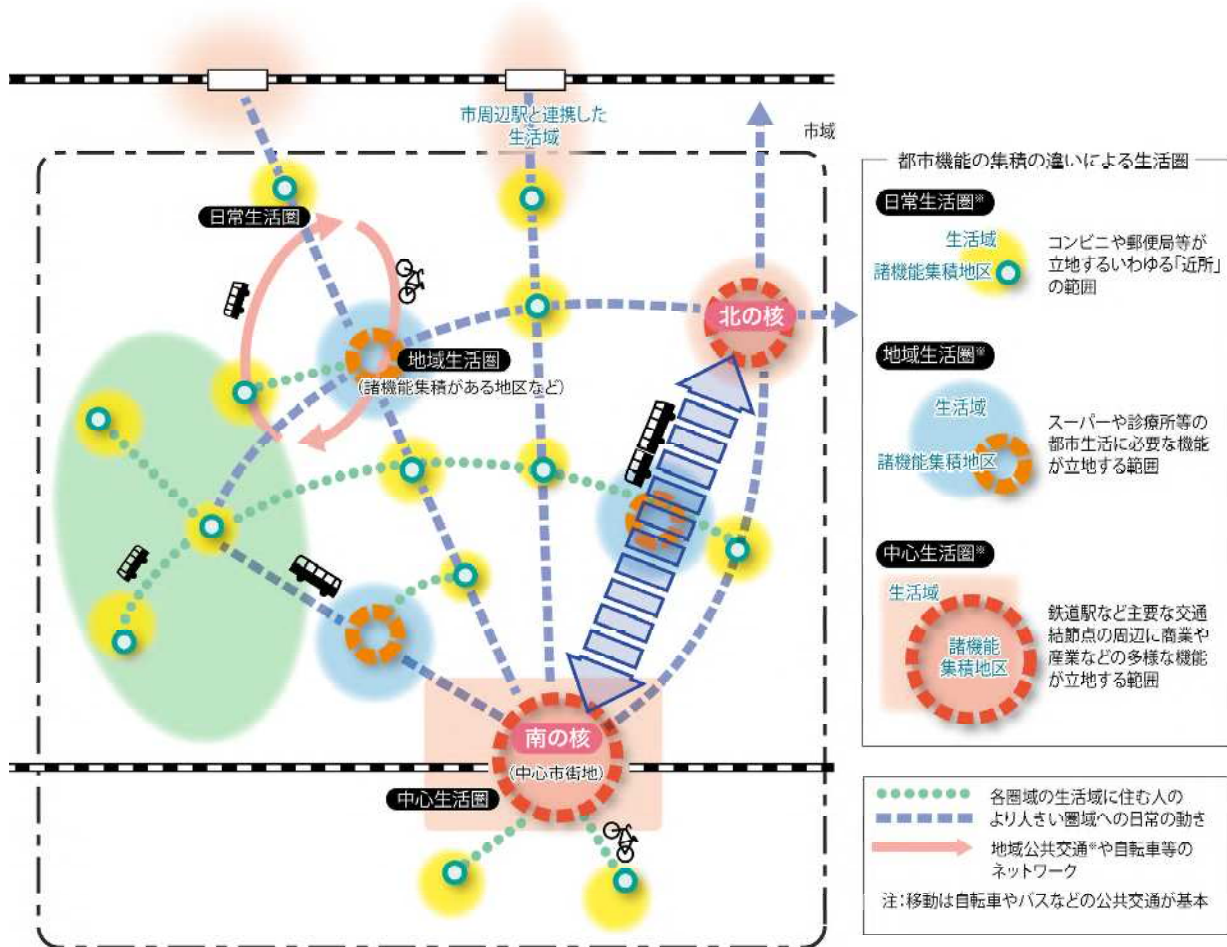
・施設や建築物の更新とあわせて、省エネルギー<sup>\*</sup>技術の普及促進策など、環境負荷の少ないまちづくりを具体化していくことが必要です。

・みどりのネットワークの実現に向け、郊外部のまとまりあるみどりの維持・保全とあわせて、市街地における効果的なみどりの配置を検討していく必要があります。

(3) 基本的な考え方

- 本市の基本構造である「2核1地域\*」と既存の地域生活圏\*をいかに、中心市街地だけでなく、各地域の地域生活圏への機能集積を図ることにより多極的に諸機能を分散させたコンパクトシティをめざします。
- 自立的な地域生活圏の形成のために、まちの成り立ちや既存の機能集積などを考慮しながら、地域生活圏ごとに都市機能を誘導すべき拠点を諸機能集積地区\*とし、公共施設の最適化\*を進めるとともに、それぞれの地域特性に応じた機能の誘導・集積を進め、相互に役割を補完しながら、市全体として都市機能の維持をめざします。また、公共交通の利用の促進等により、生活圏\*間の移動環境を向上させることでコンパクトシティ・プラス・ネットワーク\*の形成をめざします。
- 南の核\*と北の核\*の2核については、まちの顔にふさわしいデザインの誘導等により、魅力的な拠点形成をめざします。
- 公共交通の乗り換えができる諸機能集積地区を交通結節点とし、都市機能の誘導による魅力づくりとあわせて、公共交通の利用環境の向上をめざします。
- 諸機能集積地区においては、自然エネルギーの利用など環境負荷の少ないまちづくりを進めます。
- 市街地の緑化などを通じて、二酸化炭素の吸収源となる都市のみどりを積極的に保全・創出します。

コンパクトシティ・プラス・ネットワークのイメージ



#### (4) 方針

##### ア. 活力ある2核と地域生活圏\*ごとの魅力的な機能集積拠点づくり

###### ●南と北の2核への戦略的な機能誘導

- 南の核\*である平塚駅周辺の中心市街地と北の核\*であるツインシティ大神地区では、ひらつかの顔、また玄関口としての活力を向上するため、鉄道やバスなどの公共交通の利便性を高めるとともに、先導的なまちづくりを進め、広域を対象とした高次都市機能\*の整備と誘導を進めます。
- まちの顔にふさわしい魅力向上のため、都市基盤整備や施設の更新、新規の施設立地に際しては、にぎわい創出のためのしかけづくりやデザイン誘導など、魅力的な景観形成の実現化方策の検討を進めます。

###### 【取組項目】

協働・見附台周辺地区の整備

###### ●既存のコミュニティ\*を持続するための機能誘導

- 多極的に分散する地域生活圏における生活利便性を維持していくため、これまでのまちの成り立ちや都市機能の集積状況をふまえ、公共施設の最適化\*や空家等\*の活用により諸機能集積地区\*へ日常生活に必要な都市機能の誘導・集積を進めます。
- 市周辺駅へのアクセスがよい地域については、それぞれの駅周辺の都市機能の機能集積状況や移動にかかる時間を考慮し市周辺駅と連携した生活域を設定し、生活利便性の確保を進めます。

###### 【取組項目】

- 協働・立地適正化計画\*策定の検討（諸機能集積地区と誘導する都市機能の検討）
- 支援・地域のビジョン\*検討の支援

##### イ. 拠点へのアクセスを確保する公共交通軸の維持・形成と結節点の強化

###### ●骨格的交通軸の維持・形成

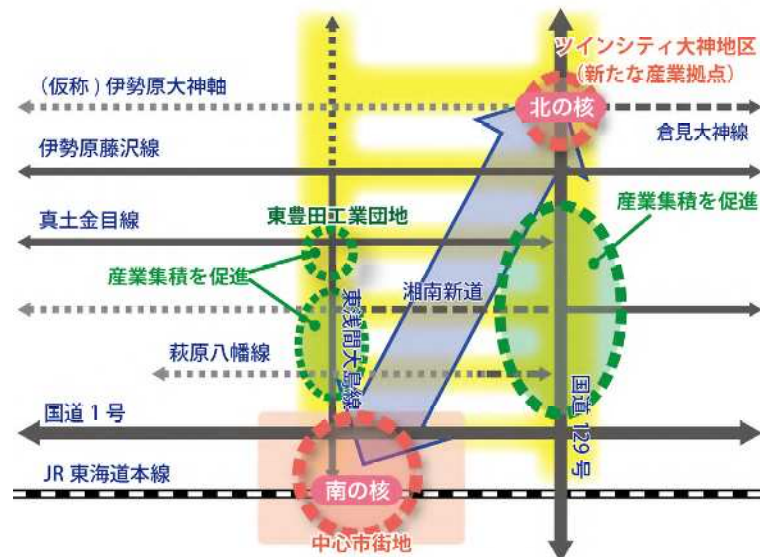
- 南の核と北の核を結ぶラダー（梯子）状のネットワークの整備を進めることにより、南北都市軸を強化するとともに、ネットワーク沿いの産業集積をめざします。また、2核を結ぶ新たな公共交通システムの導入をめざします。

- 地域生活圏における都市機能の誘導と連携して、地域生活圏の諸機能集積地区を結ぶ公共交通ネットワークの維持・強化を検討します。また、都市機能が集積する駅周辺へのアクセスを向上するため、平塚駅と市周辺駅を結ぶ主要な幹線バスの路線の維持・強化を検討します。

###### 【取組項目】

- 主導・萩原八幡線の整備の推進
- 協働・平塚駅とツインシティ大神地区を結ぶ連節バス等の新しい公共交通システムの検討

##### ラダー（梯子）状のネットワーク整備のイメージ



●交通結節点の創出と機能強化

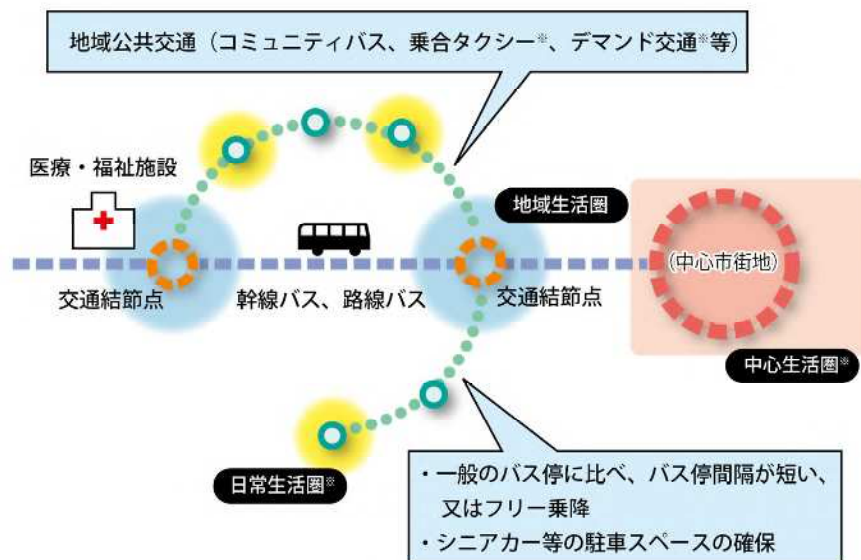
- ・今後、地域生活圏<sup>※</sup>の諸機能集積地区<sup>※</sup>において交通結節点を創出していくため、それらの地区を結ぶ主要幹線道路の整備に努めます。
- ・バス停周辺への日常必要な生活利便施設や交流機能の誘導と連携した魅力的な交通結節点の整備を進めます。

- ・歩いて暮らせる地域生活圏の実現をめざし、交通結節点へのアクセス向上のため生活圏<sup>※</sup>内の歩行者ネットワーク、各生活圏から交通結節点までの地域公共交通<sup>※</sup>や自転車によるそれぞれのネットワークの充実に努める他、コミュニティバス<sup>※</sup>等の地域公共交通の導入を図ります。

【取組項目】

- 支援**・地域生活圏ごとの交通結節点への歩行者ネットワーク、コミュニティバス導入の検討
- 主導**・主要幹線道路の整備

地域公共交通のイメージ



## ウ. 環境負荷の少ない拠点づくりと市街地の更新

### ●機能集積と連携した環境負荷の少ないまちづくり

- ・地域生活圏<sup>※</sup>の諸機能集積地区<sup>※</sup>において、商業、福祉、住宅などエネルギー需要時間帯が異なる複合的な用途の組み合わせにより、エネルギー利用効率の高いまちづくりをめざします。
- ・諸機能集積地区における建築物の用途転換や更新に際しては、自然エネルギーを利用した換気・採光システムを導入した施設改修や建替えを誘導し、エネルギー負荷の低減に貢献する拠点形成をめざします。

#### 【取組項目】

- 主導** ・ 公共施設再編に伴う施設改修や建替えにおける自然エネルギーを利用した換気・採光システムやエネルギー・マネジメント・システム<sup>※</sup>の導入など施設計画の検討

### ●産業と住宅によるエネルギー循環利用の推進

- ・大規模跡地の再整備や工場と住宅が近接する地区における段階的な市街地の更新に際しては、近接する工場と都市型住宅によるエネルギーの循環利用や再生可能エネルギーの活用などを検討し、環境負荷の少ない市街地形成を進めます。

#### 【取組項目】

- 協働** ・ 大規模跡地における開発事業に際して、近接する工場の排熱利用と都市型住宅への供給、エリア・エネルギー・マネジメント・システム<sup>※</sup>の導入など地区整備に関する協議の実施
- 協働** ・ 大規模跡地の開発事業にともなう道路、公園等の公共施設整備におけるエネルギー循環利用のための施設利用の検討

### 環境負荷の少ない市街地更新のイメージ



### ●低炭素まちづくり<sup>※</sup>に向けた緑化の推進

- ・中心市街地や産業集積地では、ヒートアイランド現象<sup>※</sup>の緩和のため、街路樹等による道路空間の緑化とともに、沿道敷地及び沿道建築物の緑化を誘導し、風の道づくりに努めます。
- ・開発事業等に際しては、緑地協定や平塚市まちづくり条例<sup>※</sup>に基づく開発事業者との協議により、道路に面した部分への緑化を誘導し、みどり豊かな街並みの形成を進めます。

#### 【取組項目】

- 主導** ・ 沿道空間の緑化を推進するための平塚市まちづくり条例の緑化基準の算定方法の見直しの検討
- 主導** ・ 緑化地域<sup>※</sup>の指定と緑化施設整備計画認定制度<sup>※</sup>の活用<sup>※</sup>の検討
- 協働** ・ 地区計画<sup>※</sup>制度の活用による緑化の推進

### 工場の敷地内緑化



### ●魅力を高める公園等の再編・整備

- ・多様な主体の参画による公園の整備や管理、運営などパークマネジメントの視点から、公園を含めた市街地のオープンスペースについて、市民の利用ニーズに応じた改修・整備のあり方を検討します。

#### 【取組項目】

- 主導** ・ 公共施設の再編・再整備にあわせた公園緑地の整備
- 主導** ・ 借地公園方式の活用による近隣公園や地区公園等の整備の検討

## Ⅲ. 2 多様な住まい方を実現するまちづくりの方針

### (1) 方針追加のねらい

- 本市には、にぎわいある中心市街地の共同住宅やその周辺の平坦地に広がる戸建て住宅地、田園地域や丘陵部のみどり豊かな住宅地など、多様な住まいのストック\*があり、地域ごとにコミュニティ\*が形成されています。
- 今後予想される人口密度の低下に対し、空家等\*対策にとどまらず、駅や商店街の利便性とにぎわいがある中心市街地、職住近接の住宅地、海辺や川辺の自然に親しめる住宅地、田園のみどり豊かな住宅地など、本市の有する多様な住宅ストックの魅力を向上し、定住を促進するとともに価値観やライフスタイルに応じた住み替えの誘導をしていくための方針を追加します。

### (2) 課題

#### ●居住誘導に関する課題

- 今後、全市的に偏りなく人口が減少することに伴う市全体における人口密度の低下が予想されています。人口密度の低下が進むと、商業施設等の撤退などによる生活利便性の低下が懸念されます。
- コンパクトな地域生活圏\*の実現をめざし、住まいの多様性をいかにしながら計画的に居住誘導を図り、市街地の人口密度の低下に適切に対応していくことが必要です。
- 住工混在により、操業環境と住環境の悪化が生じているため、産業立地地区における居住誘導のあり方の検討や住工混在地域における居住誘導と産業集積を両立するまちづくりを進めていく必要があります。

#### ●空家等対策に関する課題

- 空家等の増加は、都市の活気を減少させるほか、土地利用の空洞化を引き起こし、コンパクトな地域生活圏の形成にも影響を与えることから、空家等の対応とそのしくみづくりが必要です。
- 空家等の利活用促進の観点から、中古住宅の流通促進や空家等の多様な利活用のしくみの構築に加え、住み替え支援の包括的な体制を検討していく必要があります。

空家住宅（イメージ）



### (3) 基本的な考え方

- 全市的な市街地の低密度化を防ぎ、環境負荷が少なく、歩いて暮らせる日常必要な生活利便施設が維持できるコンパクトな地域生活圏<sup>※</sup>の形成をめざします。
- 生活圏<sup>※</sup>ごとに、一定の人口密度の維持をめざす市街地のエリアを具体化するとともに、本市の有する住まい環境の多様性をいかして、居住誘導を進めます。
- 居住誘導に向け、中心市街地のにぎわいと生活利便性、周辺市街地の職住近接や交通利便性、沿岸部の自然に親しめる住環境や丘陵部や田園の緑とゆとりある住環境など、それぞれの地域が有する住まい環境の魅力を高めるまちづくりを進め、ライフスタイルやライフステージに応じて多様な暮らし方が選択できるまちづくりをめざします。
- 人口減少や高齢化の進展により増加する空家等<sup>※</sup>は、利活用可能な地域の資源と捉え、市場流通や利活用促進を検討し、地域の活性化やまちの魅力向上をめざします。

#### 中心地域、沿岸部、郊外などの多様な住まい環境のイメージ



中心市街地の共同住宅



沿岸部の住宅地



丘陵部の住宅地





(4) 方針

ア. 良好な地域生活圏\*と住まいの形成

●計画的な居住誘導を図る地域生活圏の設定

- 既成市街地\*においては、地域生活圏ごとに生活サービスの維持と人口密度の維持を図るため、現在の人口集中地区（DID）\*を基本として、新たな市街地の拡大を抑制するとともに、定住の促進や住み替え、転入を誘導する住まいの供給や魅力づくりを進め、居住誘導していく圏域を検討します。
- 計画的な居住誘導を図る圏域は、安全性や利便性を向上させるために、将来人口推計とあわせて、諸機能集積地区\*の設定や産業の集積状況、災害危険性などを考慮した圏域を検討します。
- 市街化調整区域\*内の集落地については、今後も地域コミュニティ\*を維持できるよう、人口回復のための地区活力の回復や生活利便性を維持するための地域生活圏の形成について検討します。

【取組項目】

- 支援** ・市街化調整区域の集落のまちづくりの支援
- 協働** ・立地適正化計画\*策定の検討（居住を誘導する圏域の検討）

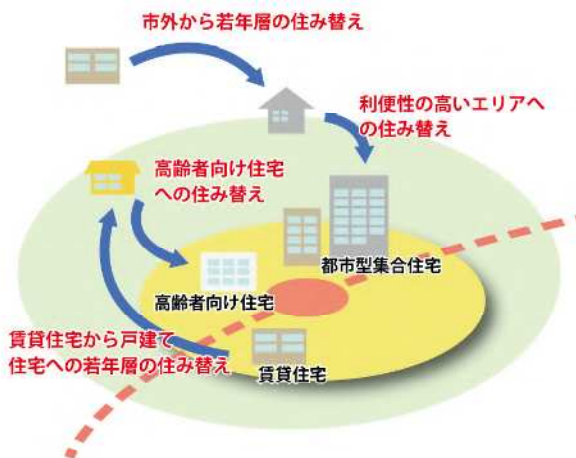
●生活圏\*ごとの魅力づくりと多様な暮らし方の実現

- 本市の居住誘導は、住まい環境の多様性をいかに、地域ごとの居住誘導に努めます。
- 生活利便性の高い中心市街地での街なか居住、職住近接の戸建て住宅地での子育てライフ、マリッジ\*を親しむアクティブライフ、自然豊かな田園住宅でのスローライフなど、多様な暮らし方に応じて住まいを選択でき、多様な住まいの供給方策を検討します。
- 生活圏ごとに今後のばしていきべき住まい環境の魅力を具体化し、その魅力向上のためのまちづくりを進めます。
- 居住を誘導すべき街なか等においては、新規住宅の供給促進や中古住宅の流通促進の方策、空家等\*利活用スキーム\*等を検討します。
- 住まいの供給とあわせて、ライフステージの変化に応じた住み替え誘導の取組みを進めます。

【取組項目】

- 支援** ・生活圏ごとの暮らしと住まいのビジョンの策定
- 協働** ・住み替え誘導に関する情報の市内外への発信や支援方策の具体化と実施

住み替え誘導のイメージ



## イ. 空家等<sup>※</sup>の利活用の推進

### ●空家等利活用のエリア戦略の立案

- ・空家等への対応については、「空家等の発生抑制」、「空家等の適正管理の指導」、「空家等の利活用の促進」の3つを基本として、地域の実情にあわせてこれらを円滑かつ効果的に実施するための新たなしくみづくりを進めます。
- ・居住誘導を図る地域生活圏<sup>※</sup>の設定とあわせて、住宅ストック<sup>※</sup>としての空家等の実態を把握し、居住誘導のエリア戦略への利活用を検討します。

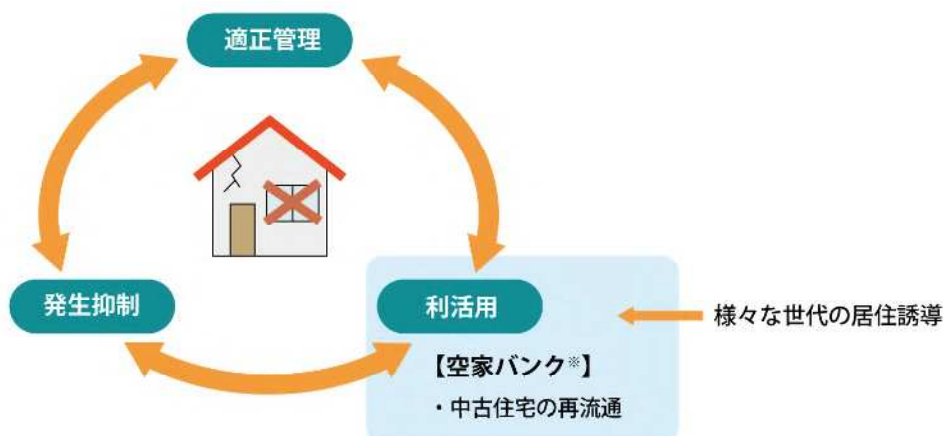
#### 【取組項目】

- 主導** ・居住誘導を図るエリアにおける先行的な空家実態調査の実施と住宅ストックデータベース<sup>※</sup>の整備
- 主導** ・立地適正化計画<sup>※</sup>策定の検討と連携した空家等の利活用の方針の明確化

### ●中古住宅流通促進のためのしくみづくり

- ・空家となっている住宅を、住宅ストックとして利活用し、子育て世代などを中心に中古住宅の再流通の促進策を検討します。

### 空家等の利活用イメージ



### Ⅲ. 3 次世代型まちづくりの方針

#### (1) 方針追加のねらい

- 平塚市都市マスタープラン（第2次）本冊でひらつかの顔づくりの方向性が示されたツインシティ大神地区は、中心市街地と同様の中心生活圏\*であり、その形成をめざして平成27年に土地区画整理事業\*による都市基盤整備に着手し、まちを形成する過程に入りました。
- これまで都市機能のなかった地区に新しいまちを形成することから、本市の北の核\*としての新たな生活圏\*が生まれます。そのため、ツインシティ大神地区は、今後の本市のまちづくりを先導し、次世代につなげていく新たなモデル地区としての整備が求められています。
- 広域高速交通とのアクセス性と周辺自然環境の豊かさをいかにしながら、産業・交通・住まい・環境などの様々な分野において、先端的な取組みを積極的に取り入れ、住む・創る・集うための機能が集約した次世代型のまちづくりを後押しするための方針を追加します。

#### (2) 課題

##### ●広域交流と交通ネットワークに関する課題

- ツインシティ大神地区は、誘致している新幹線新駅や圏央道寒川北インターチェンジ、新東名高速道路厚木南インターチェンジへのアクセス性をいかに、広域高速交通の結節する都市核としての役割が求められています。そのため、広域高速交通と市内の各拠点をつなぐ交通ネットワークの形成と乗り換えを円滑化することが必要です。

##### ●環境共生都市\*の実現に関する課題

- ツインシティ大神地区の周辺は、良好な田園環境や相模川の河川敷などの自然環境に恵まれており、これらの自然環境をいかした環境共生型のまちづくり\*が求められています。
- 近年ではエネルギー問題への関心の高まりから、都市の低炭素化は全国共通の課題です。新たにまちを形成するツインシティ大神地区においても、交通や産業、住まいなど様々な分野において創エネルギー・蓄エネルギー・省エネルギー\*の推進が必要です。

##### ●新しい産業の創出・育成に関する課題

- 東海道新幹線や圏央道、新東名高速道路といった広域高速交通とのアクセス性や「さがみロボット産業特区\*」を活用し、先端技術産業や研究機関、流通関連産業等の立地誘導が望まれます。
- 経済活動のグローバル化や情報通信ネットワークの拡大などを背景に、産業を取り巻く環境が大きく変化しています。本市の産業を支える製造業も、大量生産から多品種少量生産の時代を経て個別生産の時代を迎え、多様化した新たなものづくりへ対応した支援が必要です。

##### ●新しい生活スタイル・ワークスタイルに関する課題

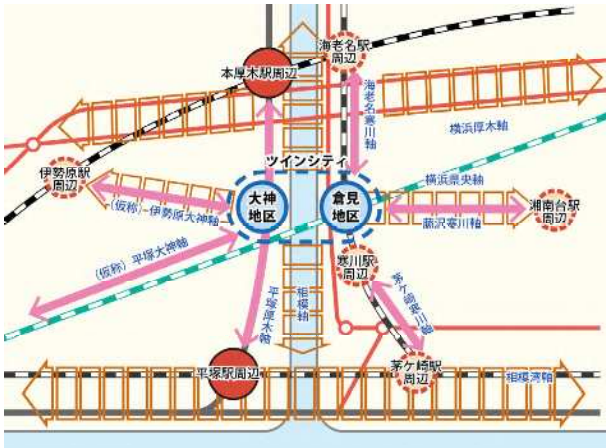
- ツインシティ大神地区は新しくまちを一から形成していく地区であり、本市の北の核、また、顔のひとつとしてまちづくりの先進性を市内外に広くアピールすることが求められています。そのためには、新たな生活スタイル・ワークスタイルが実現できることが重要であり、そのための取組みを具体化することが必要です。

### (3) 基本的な考え方

- ・広域高速交通の結節機能としての拠点整備を進めることにより、都市圏における広域的な交流と連携の窓口（ゲート）となる都市をめざします。

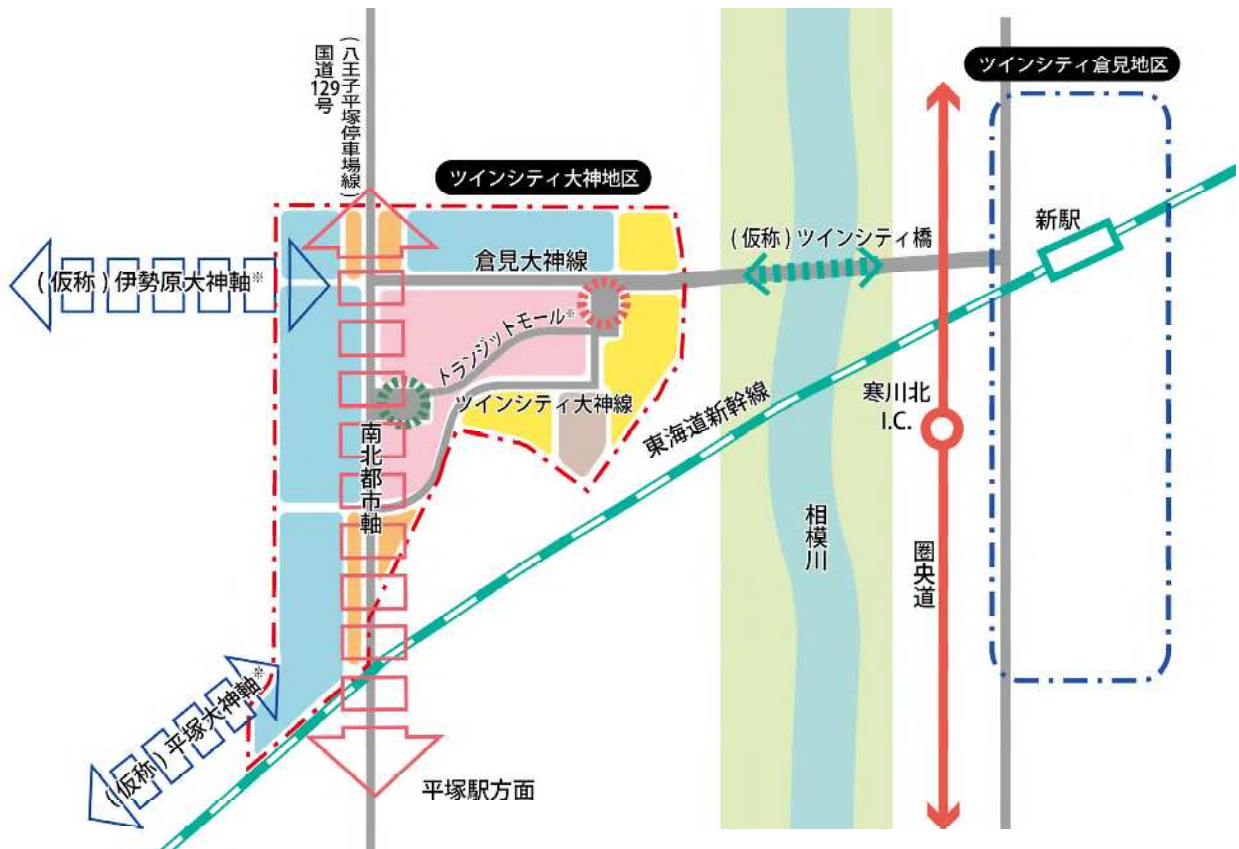
- ・自然環境との共生や都市の低炭素化に向けて、先端的な取組みを積極的に取り入れ、モデルとなる環境共生都市※をめざします。

#### 広域的な交流の連携イメージ



- ・先端技術産業や研究機関、流通関連産業等の立地誘導を図るとともに、新たな産業を創出・育成する都市をめざします。
- ・ひらつかの顔づくりのひとつとして、本市のまちづくりを先導し、他都市に広くアピールできるような次世代型まちづくりを進めます。

#### ツインシティ大神地区土地利用イメージ



【ツインシティ大神地区土地利用イメージ】

	ツインシティ大神地区		トランジットセンター※
	ツインシティ倉見地区		交流型情報ステーション※
	産業系土地利用		南北都市軸
	複合系土地利用		構想路線
	住居系土地利用		(位置など具体的な計画について検討する道路)
	沿道系土地利用		
	教育系土地利用		

(4) 方針

ア. 広域的な交流と連携の窓口（ゲート）となる都市

●新幹線新駅誘致の実現

- ・ツインシティ大神地区のまちづくりを進め、新幹線新駅の受け皿となる周辺環境を整備することにより、広域交流機能を担う新駅の早期誘致をめざします。

●交通結節機能の強化

- ・自家用車を停めてバスに乗り換えるパーク＆ライド機能をもつトランジットセンター※を整備し、新幹線新駅の西口機能を担う交通結節点の整備をめざします。
- ・トランジットセンターは、周辺に商業やサービス機能と地区のシンボルであるトランジットモール※を設けることにより、交通結節点として機能の強化をめざします。

- ・ツインシティ大神地区と平塚駅とを結ぶ南北都市軸の強化と南北都市軸を補完する東浅間大島線の延伸、相模川対岸の寒川町倉見地区を結ぶ倉見大神線の他、伊勢原市の市街地とツインシティ大神地区を結ぶ（仮称）伊勢原大神軸※など南北方向と東西方向の交通軸の強化をめざします。

【取組項目】

- 主導** ・八王子平塚停車場線、倉見大神線、ツインシティ大神線の整備の推進
- 協働** ・トランジットモールの整備
- 主導** ・（仮称）伊勢原大神軸の道路整備の計画の検討

イ. 地域の環境と共生し地球環境にやさしい環境共生都市※

●建築、まちづくりにおける環境配慮

- ・建築物の熱負荷の低減や自然エネルギーの利用など、環境負荷の低減に配慮した公共施設の整備・更新を進めるとともに、建築物に対する促進メニューの周知や支援制度を検討します。
- ・市民や事業者と連携し、太陽光発電システムや燃料電池、コージェネレーション※等の活用など先端技術の導入により、エリア・エネルギー・マネジメント・システム※の構築をめざします。

【取組項目】

- 主導** ・建築物の環境への配慮に対する支援制度の調査、研究等
- 主導** ・相模小学校の整備

●都市空間の質の向上

- ・ひらつかの顔となる街並み形成をめざして、多様な関係主体や専門家によるまちづくりガイドライン等のルールづくりを検討します。
- ・街路樹による緑化に努めるとともに、大規模施設などの敷地内緑化を推進し、うるおいのある都市空間をめざします。
- ・歩道状空地や歩行者専用道路、緑道などを繋げた歩行者ネットワークの形成をめざします。

【取組項目】

- 協働** ・まちづくりガイドラインの策定

●環境とバランスのとれた交通計画

- ・地区内立地企業や商業施設、交通事業者などと連携したコミュニティサイクル※やカーシェアリング※、地区内コミュニティバス※の導入により地区内の移動手段を確保するとともに、自家用車の利用抑制を進めます。
- ・自転車走行空間の整備やサイクル＆バスライド※の推進により、自転車利用環境の向上を進めます。

【取組項目】

- 協働** ・コミュニティサイクル、地区内コミュニティバスの導入に向けた検討
- 協働** ・自転車走行環境向上に向けた検討

緑豊かな歩道



## ウ. 先端産業を創出・育成する都市

### ●先端産業の誘致・育成

- 先端技術産業や研究機関等の立地誘導を図るため、都市基盤整備を進めるとともに、各種支援制度の調査、研究等を進めます。
- 起業をするために活動する人の支援や産学公の連携※プロジェクトの実施などにより、新たな産業の創出のための支援を検討します。

- 市民に開かれた工房でだれもが自由にものづくりを体験できるような取組みを検討します。

#### 【取組項目】

- 主導**・先端産業誘致の支援制度の調査、研究等
- 主導**・起業者のための支援制度の拡充

## エ. 新しい生活スタイル・ワークスタイルを実践する都市

### ●多様な都市機能の誘導

- 住民の交流、医療福祉、子育て支援、交通、防災、就労などの都市の機能を密接に結合させ、地域のリビングのように多様な住民が活動する場であるコミュニティリビングの実現をめざします。
- 交流型情報ステーション※を設けることにより、住民交流の場の創出をめざします。
- 事務所スペース等を共有しながら働くコワーキングスペース※などを積極的に誘導することで多様な働き方の実現をめざします。

#### 【取組項目】

- 協働**・コミュニティリビングの実現に向けた検討
- 支援**・コワーキングスペースの設置の支援

### ●公共空間の民間活用の推進

- 地区内の公園や道路空間などの積極的な民間活用を検討し、新たな公共空間の賑わい形成をめざします。
- 様々な取組みを推進するタウンマネジメント※の体制づくりをめざします。

#### 【取組項目】

- 協働**・オープンカフェ等の公共空間利活用に向けた検討

### ●市内外への情報発信、アピール

- 周辺の田園環境や河川空間との共生、職住近接など新しい生活スタイル・ワークスタイルを実践する次世代型のまちとして、SNS※等の様々な媒体を活用し、市内外へ積極的に情報発信をすることで本市のイメージ向上をめざします。

### 公共空間の民間活用



## Ⅲ. 4 安全で魅力あるまちづくりの方針

### (1) 方針追加のねらい

- 一部の沿岸部では、津波による浸水の想定がされるとともに、市内外の人々が訪れる魅力的な観光資源の一つでもあります。津波災害に対する備えと海岸エリアの魅力づくりの両立をめざした防災まちづくりに関する方針を追加します。
- 様々な自然災害に対して「防災」をきっかけとした地域レベルのまちづくりの推進による、地域防災力<sup>※</sup>の向上など、災害に強いまちづくりに関する方針を追加します。

### (2) 課題

#### ●津波からの避難に関する課題

- 最大クラスの津波<sup>※</sup>に対しては、命を守ることを第一とし、迅速かつ確実な避難の実現が求められています。
- 本市の沿岸部は、住宅地としての位置づけのほか、観光地としても重要な役割を担っており、津波発生時に避難に関する情報を持たない多くの来街者がいることも予想されます。津波からの避難の際には住民だけでなく、来街者も迅速に避難ができるような配慮が必要です。
- 浸水予測を十分に考慮した避難施設の確保が必要です。
- 観光地としての魅力づくりと連携した沿岸部全体の安全性の向上が求められます。

#### ●様々な自然災害に関する課題

- 近年増大する自然災害に対しては、公助<sup>※</sup>の取組みだけでは被害を十分に防ぎきれないため、自助<sup>※</sup>・共助<sup>※</sup>の取組みによる地域防災力の強化が求められています。

#### ●被災後の復旧、支援体制に関する課題

- 自然災害の発生を事前に予測することは困難であり、被災後の被害を最小限に抑えるために、避難・支援体制の強化が必要です。
- 迅速な復旧・復興に備えるための基礎となる情報を事前に整理しておく必要があります。

### (3) 基本的な考え方

- 津波災害に対しては「守る」「逃げる」「備える」を基本に、沿岸部の魅力創出との連携や津波情報に関する情報提供など、ハード施策とソフト施策の適切な組み合わせにより、逃げやすいまちづくりを進めます。
- 公助<sup>\*</sup>による防災対策とあわせて、「防災」をきっかけとした地域レベルでのまちづくりを推進し、自助<sup>\*</sup>・共助<sup>\*</sup>の取組みによる地域防災力<sup>\*</sup>を強化することで、災害に強いまちづくりを進めます。
- 被災後の避難・支援体制の強化や復旧・復興に備えた情報整理など、迅速な復旧・復興が可能なまちづくりをめざします。

#### 安全で魅力あるまちづくりの考え方のイメージ





(4) 方針

ア. 沿岸エリアの魅力創出と連携した防災まちづくり

●「守る」津波から市民を守るまちづくり

- ・新港周辺地区における津波対策として、防潮堤の拡充等により防潮機能の強化に努めます。

【取組項目】

主導 ・ 津波対策の推進

●「逃げる」津波から逃げやすいまちづくり

- ・海岸エリアの魅力高める取組みと連携した津波対策を進めることで沿岸部全体の魅力と安全性の向上に努めます。
- ・湘南ひらつかビーチパーク※、龍城ヶ丘プール跡地の整備の際には津波からの避難機能の付加を検討します。
- ・沿岸部の住民だけでなく、来街者も津波から逃げやすいまちづくりのため、避難標識等の避難誘導対策を進めます。
- ・沿岸部への道路整備などアクセス性を高め、逃げやすいまちづくりをめざします。

- ・公共サイン※等による海抜表示看板の充実や津波ハザードマップの活用など、避難行動を支援する情報提供を進めます。
- ・沿岸部の住民や来街者を対象に、津波に備えた避難訓練などを行います。

【取組項目】

- 主導 ・ 津波避難機能を含めた湘南ひらつかビーチパーク、龍城ヶ丘プール跡地の整備
- 主導 ・ 新港アクセス道路の整備
- 支援 ・ 津波ハザードマップの活用
- 協働 ・ 津波避難訓練の実施

●「備える」迅速な復旧・復興に備えたまちづくり

- ・地籍調査※の実施等、被災後の復旧・復興に向けた基礎となる情報の整理に努めます。
- ・ライフラインの機能継続性確保、公共公益施設の業務継続性確保に向けた取組みに努めます。

【取組項目】

主導 ・ 地籍調査の実施

沿岸部の魅力創出と連携した津波防災のイメージ



## イ. 災害に強い地区防災まちづくり

### ●地域防災力<sup>※</sup>の強化

- ・防災をきっかけとした地区単位でのまちづくりを促進し、地域防災力の向上をめざします。
- ・自治会や自主防災組織を活用したコミュニティ<sup>※</sup>の形成と連携体制の強化を進めます。
- ・災害リスクの高いエリアについては、防災意識を高める区域を検討します。

#### 【取組項目】

- 支援** ・地区単位での防災まちづくりの推進
- 協働** ・立地適正化計画<sup>※</sup>策定の検討（防災意識を高める区域の検討）

### ●避難・援助体制の強化

- ・様々な災害リスクを考慮した上で、既存の避難施設の安全性を検証し、必要な場合には避難施設の見直しとともに、避難行動について検討します。
- ・避難行動要支援者への支援の充実と帰宅困難者への対応に努めます。

#### 【取組項目】

- 主導** ・ハザードマップの見直しと合わせた既存避難施設の安全性の検証

### ●防災情報の提供の強化

- ・防災意識を高め、自助<sup>※</sup>・共助<sup>※</sup>の取組みを促すため、自然災害のリスクの高いエリアの住民に対し、災害リスクや避難方法についての周知を進めます。

#### 【取組項目】

- 主導** ・ハザードマップ等を用いた防災情報の周知

### 海拔表示のある公共サイン<sup>※</sup>

